(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

- I.その人らしい暮らしを支える
 - (1)ケアマネジメント
 - (2)日々の支援
 - (3)生活環境づくり
 - (4) 健康を維持するための支援
- Ⅱ.家族との支え合い
- Ⅲ.地域との支え合い
- IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価! ステップ 外部評価でブラッシュアップ!! ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

> ーサービス向上への3ステップー "愛媛県地域密着型サービス評価"

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

EVILLED IN CARESTINE DADARGE CONTRIBUTION OF THE DADARGE CONTRIBUTION OF THE DADARGE CONTRIBUTION OF THE DATABASE CONTRIBUTION OF TH												
評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会											
所在地	愛媛県松山市持田町3丁目8-15											
訪問調査日	平成30年3月16日											

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数)	11名	(依頼数)	18名
地域アンケート回答数			5名	

※事業所記入

事業所番号	3890200516
事業所名	グループホーム はなみずき
(ユニット名)	1 (A)
記入者(管理者)	
氏 名	山本良広
自己評価作成日	平成30年2月28日

(別表第1の2)

(3/13/25/27)	
[事業所理念] 「その人らしさを大切に、持てるだに寄り添います」 ・私たちは、その人らしさを大切に、今までの・これからの持てる力に寄り添います。 ・地域の中で共に暮らし、居心地の良い場所・安心できる場所で家族や地域とのふれあいを大切にします。 「いつも笑い声が聞こえる。いつも笑顔がこぼれている。」	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 事業所はサービス付き高齢者住宅として開設されていたが、地域住民の要請に応えてグループホームとして再出発した経緯がある。職員には経験豊かな有資格者が多く、併設事業所の医療職と連携しながら、「その人らしさを大切に、持てる力に寄り添います。」という理念を掲げてその実践に努めている。近隣にある寺社や公民館行事に積極的に参加して交流を深めている。また、同敷地内にある通所サービス利用者とも交流の機会があり、住み慣れた島での暮らしが継続できるよう支援している。開設初年度ではあるが、家族の強い要望を受けて看取りケアを実施して穏やかな最期を看取ることができ、家族にも深く感謝されている。

評 価 結 果 表

項目 No.	評価項目	小項日	内容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと				
I .そ	I .その人らしい暮らしを支える												
(1)	(1)ケアマネジメント												
			利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	0	希望や意向が言える方は当然、言えない方の思いをはかる事に努めている。	0		0					
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」 という視点で検討している。	0	普段の行動や生活ぶりを観察するよう努めている。(過去のサービスの情報等聴取)				プロイス できます できます できます できます できまる できまる できま できまる できま できまる できまる しょう できまる しょう できまる しょう はい しょう できまる しょう はい はい しょう はい				
1	思いや暮らし方の希望、 意向の把握		職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等) とともに、「本人の思い」について話し合っている。	Δ	新しいことをする場合は、家族に意向を聞くようしている。				いを聴き取るよう努めており、利用者からも、「ここの人はちゃんと話しを聞いてくれる。」と感謝されている。思いを表すことが困難な利用者について				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための 記録をしている。	0	意見はケア記録に残すが、思いを整理・共有することは難しい。				は職員間で話し合い、利用者の視点で考えるよう努めている。				
		е	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落 とさないように留意している。	0	利用者さん本位で対応しているが、家族や職員の意向が出る場合がある。								
		а	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。		家族は勿論のこと。過去のサービスの情報等からの情報聴取している。			0					
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。		毎日の申し送りにより、状態を観察し注意事項など共有している。				事業所の前身であるサービス付き高齢者住宅に居住していた利用者が多				
2	これまでの暮らしや 現状の把握	С	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	0	同上				く、職員や利用者ともにほとんどが島内出身者のため、馴染みの関係が構 築されている。利用者の背景や生活歴等は、フェイスシートに記録して共有 されている。				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握 に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかか わり等)	0	申し送りやDrやNSよりの伝達事項を掲載している。								
		е	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	0	概ね把握できている。								
	チームで行うアセスメント	а	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としている のかを本人の視点で検討している。	0	定例会(月1回)で検討している			0					
3	(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)		本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討 している。	0	同上				を括的自立支援プログラムを活用し、職員が話し合いながら課題分析を 行っている。その際、利用者や家族の意向を丁寧に聴き取り、総合的援助 方針や生活課題に反映するよう努めている。				
			検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課 題を明らかにしている。	0	十分できてない。								

項目 No. 評価項目	小項目	内 容 自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
	а	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になって いる。	定例会(月1回)で検討している				
チームでつくる本人が 4 より良く暮らすための	b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、 とれぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	同上	0		0	理念に掲げているように、その人らしさを大切に考え、できることややりたしことに着目して目標を設定し、利用者の望む暮らしが実現できるよう職員で 話し合って検討している。歯科衛生士の資格を持つ職員や、併設事業所の
介護計画	С	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし 方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	NSの協力を得て、十分なケアが出来ている				看護師の意見等を反映した内容になっている。
		本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体 制等が盛り込まれた内容になっている。	毎月のボランティアや音楽療法や地方祭への参加				
	а	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職 員間で共有している。	定例会(月1回)でケアカンファレンスしている			0	
5 介護計画に基づいた	b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、 ム日々の支援につなげている。	同上			0	□毎月利用者全員のケアカンファレンスを実施し、介護計画の実施状況を確認して検討している。不参加の職員にも周知できるよう、カンファレンス記録を回覧している。全ての記録は各ユニットのパソコンで一括管理され、い□つでも見ることができる。また、個別の介護記録に利用者の暮らしの様子
り、日々の支援	С	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的 内容を個別に記録している。	ケア記録に掲載している			0	が経時的に記録され、不穏状態にある利用者に対する状況判断や対応について丁寧に記録され、職員の気づき等についても分かりやすく記載され これる。
	d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイ デア等を個別に記録している。	同上			0	
	а	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	定例会(月1回)でケアカンファレンスしている			0	新たな要望や変化等がない場合でも、月1回介護計画の実施状況や利用
現状に即した 介護計画の見直し	b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現 状確認を行っている。	同上			0	一者や家族の満足度・達成度、今後の方針について職員が話し合って検討しており、詳細な記録が残されている。3か月毎に利用者も同席して話し合 」い、介護計画の見直しを行っている。利用者の状態等に変化がある場合、
	С	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	必要に応じNSやDrの意見も反映している。			0	家族や医療関係者と共に協議し、現状に即した介護計画を作成し実践している。
	а	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議 を開催している。	定例会(月1回)でケアカンファレンスしている			0	
7 チームケアのための会議	b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率 直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場 づくりを工夫している。	同上				/ 毎月開催するケアカンファレンスのほか、申し送り時のミーティング等で話し合い、意見や提案を出し合って検討を行っている。できる限り多くの職員 が参加できるよう夜間にケアカンファレンスを開催しており、参加できなかっ
		会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	夜間に開催し勤務表に記載している				た職員には伝達事項に会議録を添付して周知している。
	d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容 を正確に伝えるしくみをつくっている。	伝達事項に会議録を添付している。			0	
	а	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に 検討し、共有できるしくみをつくっている。	伝達事項を利用している。			0	- 朝礼ノートを出勤時に確認してサインし、情報を共有できるよう工夫してい
8 確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全て の職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に 関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	申し送り表を利用している。	0			る。必要時には連絡網を活用してメールで情報伝達をする場合もある。

变 坂 項目 No.	県グル一プホームはなみ 評価項目	ト9 <u>さ</u> 小 項 日		己		家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) F	日々の支援						124.11		
			利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それ を叶える努力を行っている。	Δ	レク等したいことを毎日尋ねているが、なかなか意見がでない。				
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、 C選ぶのを待っている等)	0	殆ど自分で買い物なども出来るが、出来ない人もいる。			0	
		С	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	Δ	いろいろなタイミングで、行ってみたい・やってみたいことなど問いかけている。				7 日常生活全般について自分で決めてもらうことを基本に支援している。月2 」回の買い物では利用者に希望を聞き、同行する場合もある。利用者や家族
9	利用者一人ひとりの思い、 意向を大切にした支援	Ι.	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にした支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	0	極力、利用者さんの意向にあわせる支援をしている。				に、行きたい所やしたいこと等についてアンケート調査を行い、要望に応えるよう心がけている。また、1日1回笑って過ごせるよう利用者の好む言葉や声かけに努めている。
		е	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	0	いろんな場面で声掛けするように努めている。			0	
		ء ا	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	0	いろいろな場面でのしぐさや言葉などサインに注意するようしている。				
		а	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にした言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	0	その人なりの生活や習慣を大切に支援するようしている。	0	0	0	
	ー人ひとりの誇りや プライバシーを尊重した 関わり	١,	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	0	難聴の方が多いため、大きな声が出ることが多い。			0	管理者は自分がされて嫌だと思うことはしないよう、自分に置き換えて考え ケアを行うよう指導している。声かけにも気をつけるよう努めているが、誘
10		С	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	0	各居室での排泄誘導をしている。				アナーではアスプロ等している。戸がれたことだっているより男はりているが、路 導時に大きな声になることもあり注意している。居室ドアは閉じており、入室 時は利用者の同意を得ている様子が窺えた。
		d	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配 (慮しながら行っている。	0	当然ノックと声掛けし入室するようしている。			0	
			職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	0	入所契約時に個人情報使用同意書をもらっている。職員は採用時に(退職後においても)個人情 報保護の誓約書を交わしている。				
		а	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し C合うなどの関係性を築いている。	0	洗濯物を一緒に畳んだり柿の渋抜きや干し柿など教えてもらっている。				
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮ら していくことの大切さを理解している。	0					7
11	ともに過ごし、 支え合う関係	С	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	0	入居者個々の気質や性格を見極めるよう努め、いろんな活動に参加して頂くよう場面に考慮して 声掛けしている。			0	車いすを押してあげたり、レクリエーション参加の声かけをしたりと、利用者同士助け合う場面が見られた。また、ユニット間を自由に行き来し、交流できるよう配慮している。
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさ <i>と</i> せないようにしている。	Δ	利用者間のトラブルは、今のところ起きてないが不安がある場合はお話をしながら、その原因を 把握し不安を取り除くようする。				

項目 No.	・県グループホームはなみ 評価項目	小項目	<u> </u>	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
		а	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り 巻く人間関係について把握している。	Δ	十分には把握できていない。				
		D	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や 馴染みの場所などについて把握している。	Δ	十分には把握できていない。				***************************************
12	馴染みの人や場との関係 継続の支援	С	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	Δ	出来ている人といない人がいる。				The state of the s
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	0	主に各室で過ごして頂くようしている。				**************************************
		а	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	Δ	月に1~2回は特別の場合を除いて、ドライブや散歩に出るようにしている。	0	0	0	アンケートの希望に応えて、大型スーパーへの遠出や、地元店での外食、 秋祭りや文化祭等の地域行事に参加している。広大な駐車場を取り囲むよ
13	日常的な外出支援	b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も 得ながら、外出支援をすすめている。	Δ	地域行事への参加やボランティアによる誕生会には参加している。				うに関連事業所が立ち並んでおり、車いすで楽に戸外に出ることもできる。 インフルエンザの流行があり外出を控えていたが、収束すれば重度等状態
			重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組ん でいる。	Δ	気象状況に考慮しながら、散歩などするようしている。			Δ	にかかわらず、外出支援に取り組む意向であり、積極的な支援が望まれる。 る。
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように 支援している。	Δ	遠足や食事会など家族の参加を得てしている。				
		а	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解して おり、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き 起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	0	看護師に相談しながらケア記録に残している。				
14	心身機能の維持、 向上を図る取り組み	b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平 衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・ 嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自 然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	Δ	こまめに声掛けしながら、出来ることはしてもらうため。直ぐに手を出せる位置で介助する。				利用者一人ひとりの心身機能のレベルを把握し、できることやできそうなことは過剰な介護にならないよう見守っている。訪問時も職員が手伝いながら古着を切ったり、共同調理場で作った料理をみんなで配膳している様子が見られた。
		С	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や 口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。 (場面づくり、環境づくり等)	0	同上	0		0	
		а	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を 踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるの かを把握している。	0	個々の有する能力を見つけるよう努めている。				- 테田老 lallの物叶や牡牡ナ柳根! サロッペ フィルマギ!!!
15	役割、楽しみごと、 気晴らしの支援	b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びの ある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽し みごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	Δ	自己主張のない人はおいてきぼりにならないよう、声掛けしながら参加化を促すよう努めている。	0	0	Δ	利用者一人ひとりの趣味や特技を把握し、共用スペースに出て楽しい時間 が過ごせるようレクリエーションに取り組んでいる。さらに、利用者が持って いる能力を日常生活の中で発揮し、自信を深める経験ができる場面を増や していくことに期待したい。
		С	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう 支援している。	Δ	春市や虫送や秋祭りに積極的に参加している。				7

変媛県グループホームIo	小項目	\ [内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと												
	а	। 0 ह	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。 利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪	0	毎月第2月曜日に、希望者に理美容師がボランティアにて1回千円で好きな髪形にカットしてくれる。 上記以外に町内のパーマ店等に希望により送迎する。				7												
	b	, Я	形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支 爰している。	0	本田士 - 18**1 1 2 + 1 			\angle	7												
	С		自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたり アドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	U	意思表示が難しい方は、職員が家族に相談しながらしている。				/ 各居室に洗面所があり、自分でできる利用者は各自で整容や更衣を行って												
16 身だしなみや おしゃれの支援	d		外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らし い服装を楽しめるよう支援している。		四季の衣替えは、ご家族にお願いしているが、職員も外出等の服装には声掛けしながら選んでもらうよう努めている。				アいるが、不適切な服装や汚れに気づいた時は、さりげなく声かけをして着替 えてもらっている。意思表示が困難など重度の利用者は、家族に好みの服 - 装を聞くなど、その人らしさが保てるよう支援している。												
	е	; / _c	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしてさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	0	その都度、必要に応じて整容等している。	0	0	0													
	f	I	里容·美容は本人の望む店に行けるように努めている。	Δ	希望者は特別な事情がない限り、送迎する。																
	g	8	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保て る工夫や支援を行っている。	Δ	意思表示が難しい方は、職員が家族に相談しながらしている。			0													
	а		哉員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解 している。	0	自分で食べようとしないときなど、根気よく声掛けながら1時間くらい食事介助する。																
	b	月	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利 用者とともに行っている。		主食はほぼ共同調理場で作っているため行ってない。柿とかミカン等を収穫し、渋抜きやら干し 市作りに参加する。 -			0	72												
	С	; Z	り用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをす る等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感に つなげている。	Δ	司上																
	d		利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレル ギーの有無などについて把握している。	0	アレルギーなど把握は出来ている。																
	е	J	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレレギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	Δ	管理栄養士が食事量などケアマネ等と連携しながら管理する			0	72												
	f	: 昇 そ	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下 莉等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいし そうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や 別み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	Δ	手の不自由な方などのため、一口サイズにするなどしっかりしている。				/ 法人の管理栄養士が献立を作り、共同調理場で調理して各ユニットで利用 者と一緒に配膳している。誕生日会では特別な料理が用意され、他事業所 の利用者と共に祝っている。干し柿やまぜご飯も作り、郷土料理の「いぎ												
食事を楽しむことの	g		茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいも Dを使用している。	Δ	使い慣れたものを使用するよう努めている。			Δ	□す」が食膳にのぼることもある。湯呑は使い慣れたものになっているが、そ の他の食器も利用者の好みで選べるよう検討して欲しい。居室に自分の食 □器を置いて使用している利用者もいる。検食担当職員は同じテーブルを囲												
'' できる支援	h	t d	哉員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく 行っている。	Δ	ー緒に食べる場合は少ないが、食べようとしない場合など横について声掛けしたり、一口おにぎ りにしたりしている。			0	んで一緒に食事を摂り、ゆったりと穏やかに声をかけながら介助や見守りを行っていた。重度の利用者も自分のペースで、食事の時間が楽しめるよう雰囲気づくりにも努めている。また、利用者の嚥下状態や体調に合わせ												
	i	ij	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを 通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、 雰囲気づくりや調理に配慮している。	Δ	その方のペースで食べていただいている。	0		0	一て食事形態を工夫し、利用者がバランスのいい栄養が取れるよう考慮する など、管理栄養士が献立を作成している。												
	j	Ä	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や 栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保 できるようにしている。	Ο	食事量や水分摂取は記録として残している。																
	k	: 15	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者に は、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工 夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	0	上記と併せて栄養補助食等の補給をしている。																
				ı		ı		1		1				1:	哉員で献立のバランス、調理方法などについて定期的 こ話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっ ては、栄養士のアドバイスを受けている。		管理栄養士による献立を使用している。			0	
		n 僧	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生 管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理 こ努めている。	0	食事前にはキーパープロによる手指の消毒、共同調理場の食器洗浄乾燥機等による衛生を管 埋している																

項目 No.	<u>グループボームはな</u> 。 評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地垣評価	な 外部 証 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと				
			職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながること を知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解してい る。	0	毎食後の歯磨きや歯科衛生士による口腔ケアや食前の口腔体操を行なっている。								
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	0	同上								
		С	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	Δ	同上				アードル				
18 Ц	腔内の清潔保持	d	 義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。 	0	毎晩義歯の消毒をしている。			1/	アクを行って予防的対応がされている。毎食後の口腔ケアと毎晩義歯の洗浄 消毒を行うなど、口腔衛生に努めている。				
		е	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが 生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯 磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症の チェック等)	0	毎食後の歯磨きや歯科衛生士による口腔ケアや食前の口腔体操を行なっている。			0					
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのま まにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	0	不具合を発見した場合、歯科衛生士による口腔ケアを通じて、歯科医師の受診をしている。								
		а	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	0	定期的なトイレ誘導に努め、極力おむつの使用は控えている。								
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	0	牛乳やヨーグルト等の積極的な摂取に努め、便秘が3日続けば、NS及びDrに相談し浣腸を検討している。				7				
		С	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	0	個々の排泄を記録し管理している				7				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々の状態にあった支援を行っている。	0	定期的なトイレ誘導に努め、極力おむつの使用は控えている。	0		0					
19 排			排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを 行っている。	0	乳製品の飲用や排泄ケア管理表のチェックをしている。				7 各居室にトイレがあり、日中夜間共にトイレで排泄ができるよう支援してい る。利用者一人ひとりの排泄パタ―ンや皮膚の状態を把握し、職員が話し				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	0	定期的なトイレ誘導に努め、極力おむつの使用は控えている。				/ 合って適切な排泄用品を選択できるよう努めている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	0	家族がおむつやパッドを用意している方もある。				7				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙 パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	0	吸収力の小さい物を日中に、大きい物を夜間に使用する。			1/					
			飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	0	乳製品の飲用や排泄ケア管理表のチェックをしている。				7				
			曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用 者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援 している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	Δ	時間帯や回数、職員側の事情によるが、それ以外は可。	(0					
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援して いる。	0	個浴で対応しており出来ている。				フ 三方向から介助することができる和式浴槽に冬季は週2回、夏季は週3回				
20 入で	.浴を楽しむことが きる支援	С	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援 している。	0	出来ることは自分でしていただくが、必ず手が出せる位置で見守る。			1/	✓ 入浴ができるよう支援している。利用者毎に毎回湯を替えており、好みの 温度でゆっくり会話をしながら入浴できるなど、利用者本位のケアに努めて				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	0	無理強いせず、時間をおいて再度声掛けする等している。				プいる 。				
			入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否 を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	0	入浴前にバイタルチェックを行い、浴後水分補給も行う。				ᄽᄼᅒᇄᅺᅵᅑᄦᄜᄽᄼᅒᇄᄸᄙᄼ				

項目 No. 評価項目	小項	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
	а	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	0	定期巡回にてパターンを把握するようしている。				
	b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	0	昼夜逆転傾向の入居者さんに、日中のレくに参加を呼び掛けるが、参加が稀である。				7 夜間不眠時は一緒に寄り添い、眠気を催した時を見計らって就寝しても
21 安眠や休息の支援	С	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではな く、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、 支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総 合的な支援を行っている。	0	個々の状態をNS及びDrに相談しながら、支援している。			0	」らっている。日中を活動的に過ごせるようレクリエーション等に誘うなど、安 易に薬剤に頼らない支援に努めている。
	d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう 取り組んでいる。	0	無理強いなく、自由に居室で休んでおられる。				7
	а	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	۵	希望者には、家族に電話している。				**************************************
	b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	Δ	希望者には、絵手紙など出している。				7
22 電話や手紙の支援	С	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	Δ	携帯を使う人もおり、希望者には、家族に電話している。				Taran san san san san san san san san san s
	d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように 工夫している。	0	便りが有れば、お礼の電話をしている。				T
	е	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。		周辺症状等、落ち着かない場合等、家族に電話して安心感を得るようしている。				7
	а	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	0	買い物を自分で出来る方はよいが、買い物出来ない方が多くなっている。				
	b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う 機会を日常的につくっている。	0	毎月のように買物日を決めている。				
	С	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。		買い物は概ね2件の量販店やスーパーで買っている。				
23 使うことの支援	d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	_	少額をお預かりして、事業所にて帳簿管理している。				7
	е	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し 合っている。	Δ	少額をお預かりして、事業所にて帳簿管理している。				
	f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。		少額をお預かりして、事業所にて帳簿管理している。				7
24 多様なニーズに 応える取り組み		本人や家族の状況、その時々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		家族が県外や市外の場合高額介護等の行政事務の手伝いをしている。	0		0	島外の病院受診に家族が付き添えない場合は、家族に代わって付き添っている。今後、個別の要望に対して家族の協力を得ながら対応していきたいと考えている。

項目 No.	県クルーフホームはな。 評価項目	小項目		自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域 評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)	生活環境づくり								
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	Δ	普段の日中玄関は自動ドアで、誰でも入れる。	0	0	0	敷地中央に汲み取りポンプのある井戸があり、取り囲むように平屋で落ち着いた雰囲気の建物が建ち並び、開放的な印象を受ける。玄関ドアは常に開放されていて自由に出入りすることができる。
		а	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。 (天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	Δ	中庭や入居者と職員が作成した、飾り付けや樹木がある。	0	0	0	
	日心地の白い	b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮 し、掃除も行き届いている。	0	掃除は屋内外問わず毎週1回している。トイレは毎日掃除している。			0	中庭に面した共用スペースは明るく広々としており、オープンキッチンと椅 子席が設けられ、食堂兼日中のくつろぎの場として活用されている。掃除
26	居心地の良い 共用空間づくり	С	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	Δ	季節の移ろいが判るように生け花をしたり、中庭の楓や鉢植えの色つきも風情が感じられる。			0	はきれいにされており、清潔感が感じられる。壁には利用者と職員が共同で作成したクラフト作品が品良く飾りつけられている。ロビーの壁面には誕生会の集合写真が飾られ、利用者が回想できる場所になっている。
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気 配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしてい る。	0	マッサージ機やラウンジでくつろぐ事ができる。				
		е	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	0	トイレや浴室は扉などにより直接見えない。				
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮	•	本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている。	0	長年使い慣れた、家具や仏壇などなじみの物を居室に持ち込んで、違和感なく過ごせるようにしている。	0		0	居室には、洗面台や冷蔵庫置き場、オゾン脱臭機、車いす用トイレ、クローゼットが設置され、テレビや家具を思い思いに配置して居心地良くしている。家族写真や仏壇、戒名を書いた額を置き、毎日祈りを欠かさない利用者もいる。
			建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかる こと」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送 れるように配慮や工夫をしている。	Δ	自分の部屋が判らなくなる人には居室前に写真等を貼る			0	
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり		不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫を している。	Δ	トイレが判らなくなる方には、便器の絵を描いてつるすなどしている。				トイレ表示の工夫や、居室が分かりやすいよう車いすを使用する利用者の 目線に合わせた位置に写真を飾る等している。建物内はバリアフリー構造 で広々としており、車いすやシルバーカーで自由に移動できる空間になって
			利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	Δ	居室には、なじみの仏壇や家具等、多くの物を持参いただいている。新聞や雑誌もフロアーにあります。				/おり、自立した生活が送れるよう配慮している。
			代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟) の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの 異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	Δ	感染症対策期間と夜間以外は玄関に鍵はかけません。	0	0	0	
29	鍵をかけない ケアの取り組み	b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	Δ	徘徊の顕著な方には身体拘束にならないように中庭向きの部屋を利用するなどしている。				職員は施錠することの弊害を理解しており、日中は玄関及び各ユニット入り口は施錠されておらず、自由に行き来することができる。
		С	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理 的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくて もすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把 握、近所の理解・協力の促進等)。	Δ	玄関前の廊下は他の事業所からも見え、大抵の徘徊者はここで発見される。				

語 No. 評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4)健康を維持するための支								
	а	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等 について把握している。	0	入居者全員の病歴や服薬等について把握出来るようファイルにしている。				The state of the s
30 日々の健康状態や 病状の把握	b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	0	毎日入居者全員の服薬や食事量やバイタルチェックをし記録している。				areas and a second
	С	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	0	異常があれば看護師に伝え、バイタル等も毎日報告している。				
	а	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本 人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	0	入居者全員の病歴や服薬等について把握している。家族が希望すれば島外の病院も受診できる。	0			
かかりつけ医等の 受診支援	b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を 受けられるように支援している。	0	看護師等から病状の説明をし本人及び家族の了解を得て受診する。了承が得れない場合は受 診しない。				- the recommendation of the state of the sta
	С	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。		受診の必要性やその結果などその都度利用者さんの状態を家族に逐一報告している。				ATTERNATURA DE SERVICIO DE SER
	а	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む 本人に関する情報提供を行っている。	Δ	入院された方はいないが、グループ内では入院には必ず付き添い、情報提供する(予定)。				
32 入退院時の医療機関との連携、協働	b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院 できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めて いる。		同上であるが、地域連携室等と連絡を取りながら早期退院に向けて情報交換する(予定)。				
	С	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	Δ	日常的に看護師よる健康管理が行われ医師と連絡を密にしており、緊急時に迅速な対応が出来るようしている。				,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,
	а	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。 看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。		グループ内より看護師の派遣を受け、医療連携加算を算定しており、日常的に健康管理等をしている。				
33 看護職との連携、協働	b	看護職もしく訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	Δ	同上				The state of the s
	С	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が 適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早 期発見・治療につなげている。	Δ	同上				
	а	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や 用量について理解している。	Δ	職員にはお薬ファイルを確認できるようしている。				
		利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう 支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	0	毎日看護師による服薬配置確認が行われている。				
34 服薬支援	С	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、 副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の 低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っ ている。	0	異変が有る場言いは看護師に伝え医師と協議し服薬調整することもある				
	d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や 変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供し ている。		利用者さんのバイタルは勿論のこと排泄や皮膚の状態については、入浴時等に慎重に観察するようしている。				Annearement was the second sec

項目 No.	評価項目	小 	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
		重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	0	利用者さん及びその家族には「重度化対応・終末期ケア対応指針」の同意を得てそれにより対応 している。				
		重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけで はなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で 話し合い、方針を共有している。	0	同上	0		0	
35	重度化や終末期への支援	管理者は、終末期の対応について、その時々の職員の Bいや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができる かの見極めを行っている。	Δ	1月末に家族の強い要望により、事業所で初の看取りをさせていただきました。看取り加算は算 定せず。				法人内の医療関係者との密な連携体制のもと、家族と話し合いながら穏や かな最期を看取り、深く感謝されたことは職員の自信にも繋がっており、今
	主反心。你不知,如人孩	d 本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や 対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	Δ	同上				後の業務にも活かせている。
		重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	Δ	看護師を中心にその時々の変化を食事や水分補給・排泄量を記録し、医師との連携密にし対応 しました。				
		f 家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	Δ	家族さんの強い希望により、看取りをさせていただいた、「大往生できありがとう」と言葉をいただいた。				
		職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、 疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、 早期対応策等について定期的に学んでいる。	0	グループ内での講習等で定期的に講習している。				
		感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が 一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対 応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整え ている。	染症が発生した場合に速やかに手順にそった対	The state of the s				
36	感染症予防と対応	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等 c を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発 生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	0	昨年末のインフルエンザ警報発令から、面会外出制限をしている。				
		d 地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の 流行に随時対応している。	0	グループ内感染員会による講習会への参加をしている。				and the second s
		職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者 e や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援してい る。	Δ	感染予防のため出入り口に消毒液とマスクを設置し、訪問時・退所時に使用をお願いしています。 す。				The state of the s

変易	県グループホームはなみ 	· , -						· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
項目 No.	評価項目	・ 項 内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
П.	マ族との支え合い アンファイ							
		職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒 a 哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いて いる。	Δ	毎月の利用料支払い時に近況をお伝えしている。遠足や月祭り等イベントのご案内や運営推進会議のご案内をしている。				
		家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	Δ	居室やラウンジにてお話しできるようしている。希望者には宿泊も出来るようしている				
		家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機 会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	0	月祭りや遠足や外出時のご案内は毎年しています。	0		0	
	本人をともに支え合う	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている 家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、 d 利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えてい る。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写 真の送付等)	Δ	毎月グループ内広報委員会において、各事業所において便りを作成し発行している。	0			利用者は経営形態が、サービス付き高齢者住宅からグループホームに変 わっても、引き続き利用しており、利用者や家族とは馴染みの関係ができ
	家族との関係づくりと支援	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りた いことや不安に感じていること等の具体的内容を把握し て報告を行っている。	Δ	新しいことをする場合は、家族に必ずご意見をうかがって対応している。				ている。家族には、月祭りや遠足等の行事案内をして参加を得ているほか、面会時に暮らしの様子を伝え、電話でも頻回に報告を行っている。毎月便りを発行しており、最近は利用者と職員合作の絵手紙を添えて送り、
37		これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い 関係を築いていけるように支援している。(認知症への 理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての 説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	Δ	施設での対応の現状を伝え、その様子をお知らせしています。				感動的な返信をもらっている。2か月に1回開催される運営推進会への出席や、続いて開催する家族会で報告や意見交換を行っているが、次第に家族の参加が減っているため、改めて会の運営について家族の意向を聞く機会を設け、運営上のことや職員の異動等についても報告することを期待したい。また家族の面会時に気軽に声かけするなど、相談しやすい雰囲気づ
		事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、 理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機 器の導入、職員の異動・退職等)	Δ	運営推進会議において、ご家族の行事等について報告している。	0			くりにも努めて欲しい。
		a 家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	Δ	グループ内の諸行事については、家族に参加のご案内をしている。				
		利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に i 説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し 合っている。	Δ	事故報告などから、家族にその内容を説明しその対応策の了承をえている。				
		家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に j 伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定 期的な連絡等を積極的に行っている。	Δ	利用者さん同様声掛けや連絡しているが、積極的に行っていきたい。			Δ	
		a 契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	Δ	事前に内容説明を行い契約している。				***************************************
38	契約に関する説明と納得	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を 明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上 で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退 居事例がない場合は、その体制がある。	0	退去者は家族の希望する、特養入居者と看取りさせていただいた2名のみで納得いただいている。				***************************************
		契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	Δ	利用料金改定は、その都度報告し改定している。				The succession of the successi

項E No.		小項日	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
ш.:	地域との支え合い								
		а	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	Δ	民生委員や自治会長や老人クラブ会長等のご理解により開設し、運営推進委員にも就任いただいている。				
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	0	お宮やお寺の行事に参加し、地域住民との交流は積極的に行っている。		0	0	
	地域とのつきあいや	С	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増 えている。	Δ	地域に空き家が増えており、支援者は増えていない				7
	ネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する	d	地域の人が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	Δ	利用者の友人や家族はよく来ていただく。月祭りは地域の主要なイベントとなっている。				7 上近くにある神社や寺院、公民館での行事に参加し、法人が行う月祭りは地 1
39	市町の日常生活圏域、自治会エリア	е	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	Δ	近所の方とあまり声を掛け合う機会がない。				域行事として定着し盛大に行われている。併設されている通所サービスの 利用者との交流の機会も多く、訪問中も廊下づたいに通所サービスの利用 者が訪れ会話をするなど、地域住民との交流もできている。
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がし や充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行って いる。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)) 	お抹茶会や誕生会などボランティアの方はよく来てくれる。				7
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		お祭りやイベントには参加するが、全員の方が力を発揮しているとはいえない。				7
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	0	地域内の理美容店が毎月1回第2月曜日に希望者を1000円でカットをしてくれます。				
			運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の 参加がある。	Δ	ご家族全員にご案内していますが、固定化している。	0		Δ	
			運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。		自己評価や外部評価は未だない。			0	運営推進会議には、家族や自治会長、老人クラブ会長、民生委員等地域 の人々の参加があるが、家族の参加者が固定化されているので、他の家 族にも積極的に呼びかけるなど参加者の増にも努めて欲しい。会議では、
40	運営推進会議を 活かした取組み	С	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	_	自治会長の提案で北浦地区自主防災組織の訓練に参加するようになった。		(利用者状況や活動報告後に意見交換を行っている。参加者から得た情報 をもとに、地域行事や地区防災訓練等に参加している。家族や地域参加者 に対して認知症ケア啓発のミニ講座を企画したり、地元消防団の話しを聞
			テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバー が出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をして いる。	0	次回開催日は会の終わりに皆で決めている。		0	1 /	7いたり等、内容を工夫しながら、より充実した会議になるよう取り組んでいる。 る。
		е	運営推進会議の議事録を公表している。	Δ	特には公表してない				7

項目 No.	評価項目	小項日	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Խ.ե	り良い支援を行うための	運営	学体制	=					
41	理念の共有と実践	а	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通 認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになる よう日常的に取り組んでいる。	0	取り組み出来ている				
			利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく 伝えている。	Δ	パンフレットに記載しております。	0	0		
	職員を育てる取り組み ※文言の説明	а	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	Δ	法人内の各委員会の研修会には殆ど出席するが、島外の研修となると数人しか参加してない。				
	代表者:基本的には運営 している法人の 代表者であり、理事長や 代表取締役が該当する	b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	Δ	法人内の各委員会の研修会には殆ど出席するが、島外の研修となると数人しか参加してない。				
42	が、法人の規模によって、 理事長や代表取締役をそ の法人の地域密着型サー ビス部門の代表者として	С	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。		職場環境改善及び整備に努めている。				/ 代表者は新入職員に対して、業務やケア内容についてチェックリストを作成し、確実に実施できるよう教育支援を行っている。また、職員が意見や提案を言いやすい職場環境づくりを推進するよう努めている。
	扱うのは合理的ではない と判断される場合、当該部 門の責任者などを代表者 として差し支えない。した がって、指定申請書に記 載する代表者と異なること		代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。 (事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)		今治地区グループホーム協議会に加入し2月に1回誰かが参加するようにしている。				
	はありうる。	е	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための 工夫や環境づくりに取り組んでいる。	Δ	誰に対してでも挨拶や声掛けができ、意見や悩み事も気軽に相談できる雰囲気づくりに努めている。	0	0	0	
			代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について 学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどの ような行為なのかを理解している。		スタッフ会議等で学習している。				
	EARL OWN		管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	0	毎月1回のスタッフ会議でカンファレンスしている。				を
43	虐待防止の徹底	С	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見過ごされることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。		虐待は特に注意をしているが、対応方法は個別にする。			0	ほか、対応方法や手順について職員で共有している。また職員会議で議 として取り上げ、協議を行うなど業務改善にも努めている。
			代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者への ケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検して いる。		日頃の声掛けや態度などから異変を感じた場合は、ケアに影響が出ないよう声掛けしながら見守る。				
		а	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。		すべての職員とは言えない。				
44	身体拘束をしない ケアの取り組み		どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。		グループ内身体拘束員会による毎月の会議録(実例)の報告をしている。				de service de la constitució d
		С	家族等から拘束や施錠の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねなから理解を図っている。		家族が望むことが万が一拘束であった場合は、その旨伝え他に方法がないか相談する。				The state of the s

項目 No. 評価項目	小項目) 頁	内容	自己 評価	判断した理由・根拠	家加速	疾 i	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
	а	制	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見 制度について学び、それぞれの制度の違いや利点など 合め理解している。	Δ	すべての職員とは言えない。	/				
45 権利擁護に関する 制度の活用	b) し [']	川用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違 いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、 目談にのる等の支援を行っている。	Δ	相談があればできる。					7
	С	; 扫	を援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包 舌支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見セン ロー、司法書士等)との連携体制を築いている。	Δ	相談があればできる。					
	а	変	を我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急 をや事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周 叩している。	Δ	対応体制は取っているが、マニュアルはできてない。		1			Annual management of the second secon
急変や事故発生時の	b	· 全		Δ	すべての職員に定期的とは言えない。	/				7
46 備え・事故防止の 取り組み	С	; -	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の -歩手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員 引で検討するなど再発防止に努めている。	0	全て報告するが、職員間での十分な検討はされてない。		1	/		7
	d		川用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険に Dいて検討し、事故防止に取り組んでいる。	0	毎月1回のスタッフ会議でカンファレンスしている。		1			7
	а	超	告情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、 箇宜対応方法について検討している。	Δ	マニュアルは作成しているが、苦情はいまのところない。					***************************************
苦情への迅速な対応 改善の取り組み	± b	o ld	川用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合に は、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と 思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	Δ	苦情はいまのところない。		1			7
	С	; t	告情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとと らに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得なが が前向きな話し合いと関係づくりを行っている。		苦情はいまのところない。	/	1			7
	а	ı l'	川用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくって いる。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別 ニ訊く機会等)	Δ	相談窓口は事務所に設けている		1		0	
	b	را (家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくって いる。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族 会、個別に訊く機会等)		運営推進会議でご意見や要望あるか尋ねている。	0)			 利用者の意見や要望は日常会話の中から聞き取り、それに応えられるよ
48 運営に関する意見の	ō映 c		契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談が できる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	Δ	市や県等の相談窓口もお知らせしている。					7 努めている。家族とは良好な信頼関係が構築されており、運営推進会議で族会で意見聴取をするほか、面会時に声をかけて聞いている。管理者職員に職員会やケアカンファレンスの場で意見や提案を伝えるほか、面記
	d		代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や 要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	Δ	年に数回運営推進会議に参加している					7などで個別にも聞くなど意見等を集約し業務に活かせるよう努めている。
	е	. 持	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を 持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営に いいて検討している。		毎月1回のスタッフ会議を開催している。	/			0	

項目 No. 評価項目	小 項 日	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地垣 評価	大 外部 評価	β 実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
		代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的 を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでい る。	0	全員で取り組んでいる				
	b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするととも に、意識統一や学習の機会として活かしている。	-	課題を明かにし意識統一を図りたい。				ᄼᄝᄯᇄᅛᅎᄼᅅᄬᅑᄺᅎᅟᄥᄝᄉᄝᄯᅌᄀᅑᄺᅔᄯᇇᅟᆿᆖᆔᆝ
49 サービス評価の取り組み		評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	-	目に見える計画を立て取り組みたい。				- 今回が初めての外部評価で、職員全員が自己評価を行い、ユニットリー ダーがまとめて評価表を作成した。職員は改めて原点に立ち戻り、求めら れている事柄や不十分と思われる事柄に気付く機会になったと感じてい - る。今後は運営推進会議で報告し、さらなるサービスの向上に努めることに
	d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	-	関連機関に報告しモニターいただきたい。	0	0	-	- る。っては連呂推進去議で報告し、さらなるり一に入め向上に労めることに 期待したい。
	е	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げ た取り組みの成果を確認している。	-	運営推進会議に掲げた目標を確認いただきたい。				7
	а	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアル を作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、 原子力災害等)	Δ	グループ内で災害マニュアルを作成している。				
	b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実 に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を 計画して行っている。	Δ	マニュアルによる災害・火災訓練など毎年2回実施している。				7
50 災害への備え	d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・ 物品類の点検等を定期的に行っている。	Δ	同上				ア災害時マニュアルを作成し、隣接している法人の事業所と共同で訓練を実施して協力体制を構築している。また、地域防災訓練にも参加して交流しいる。今後はさらに法人内及び地区の防災訓練を重ねながら、細部にわ
	е	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	Δ	同上	0	期待したし	一たっての協力体制について検討を重ね、実践に活かせるようになることに 期待したい。	
	f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)		北浦地区自治会が組織する自主防災組織の訓練にグループで参加している。				7
	а	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	Δ	できてません。				
		地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	×	電話での入所に関連するご相談程度である。		0	Δ	ー 電話での相談支援にとどまっており、地域医療活動の実績がある法人の協
51 地域のケア拠点としての 機能	С	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	Δ	県社協でも調査され、希望があれば場所は提供する。				7力を得て事業所をPRし、地域の相談二一ズを集約し地域の相談拠点となる事業所を目指して欲しい。開設1年足らずの事業所であるが、住民からの信頼や期待が大きく、それを活かし市や地域関係機関等とも連携し、地域イベントなどにも取り組むことが望まれる。
	d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や 研修事業等の実習の受け入れに協力している。	Δ	中学高校生のワークショップ受け入れを毎年おこなっている。			1	7
	<u>a</u>	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)		伯方地域包括支援センター会議には、必ず出席している。			Δ	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

- I.その人らしい暮らしを支える
 - (1)ケアマネジメント
 - (2)日々の支援
 - (3)生活環境づくり
 - (4) 健康を維持するための支援
- Ⅱ.家族との支え合い
- Ⅲ.地域との支え合い
- IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価! ステップ 外部評価でブラッシュアップ!! ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

> ーサービス向上への3ステップー "愛媛県地域密着型サービス評価"

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町3丁目8-15
訪問調査日	平成30年3月16日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数)	11名	(依頼数)	18名
地域アンケート回答数			5名	

※事業所記入

事業所番号	3890200516
事業所名	グループホーム はなみずき
(ユニット名)	2(B)
記入者(管理者)	
氏 名	山本良広
自己評価作成日	平成30年2月28日

(別表第1の2)

[事業所理念] 「その人らしさを大切に、持てる力に寄り添います」 ・私たちは、その人らしさを大切に、今までの・これからの持てる力に寄り添います。」という理に、今までの・これからの持てる力に寄り添います。・地域の中で共に暮らし、居心地の良い場所・安心できる場所で家族や地域とのふれあいを大切にします。	(別衣弟1072)	
「いつも笑い声が聞こえる。いつも笑顔がこぼれている。」	に寄り添います」 ・私たちは、その人らしさを大切 に、今までの・これからの持てる 力に寄り添います。 ・地域の中で共に暮らし、居心地 の良い場所・安心できる場所で家 族や地域とのふれあいを大切に します。 「いつも笑い声が聞こえる。いつ	ループホームとして再出発した経緯がある。職員には経験豊かな有資格者が多く、併設事業所の医療職と連携しながら、「その人らしさを大切に、持てる力に寄り添います。」という理念を掲げてその実践に努めている。近隣にある寺社や公民館行事に積極的に参加して交流を深めている。また、同敷地内にある通所サービス利用者とも交流の機会があり、住み慣れた島での暮らしが継続できるよう支援している。開設初年度ではあるが、家族の強い要望を受けて看取りケアを実施して穏やかな最期を看取ることができ、家族にも深く感謝されて

評価 結果表

項目 No.	評価項目	小項日	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I .そ	の人らしい暮らしを支える	3			·				
(1) 4	アマネジメント					_			
		а	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把 握に努めている。	0	「できること」「やりたいこと」に着目し、一人ひとり違った生活に寄り添えるよう努めている。	0		0	
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」 という視点で検討している。	0	職員間で話し合いなど行い、常に本人の立場にたって考えようと努めている。				プロイン できまた できます できます できます できまる できまる できまる できまる できまる できまる できまる できまる
	思いや暮らし方の希望、 意向の把握	С	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等) とともに、「本人の思い」について話し合っている。	Δ	家族とは話せているが友人等との接点が少ない。				いを聴き取るよう努めており、利用者からも、「ここの人はちゃんと話しを聞いてくれる。」と感謝されている。思いを表すことが困難な利用者について
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための 記録をしている。	0	ほとんど出来ていない。				は職員間で話し合い、利用者の視点で考えるよう努めている。
		е	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落 とさないように留意している。	0	毎月のカンファレンスで、スッタフ全員で利用者ごとに話し合うようにしている。				7
		а	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだれりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	Ί,	家人や以前利用していた施設から聞いている。			0	
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。		変化があれば記録を行い、現状についてカンファレンスを行っており、把握に努めている。				事業所の前身であるサービス付き高齢者住宅に居住していた利用者が多
2	これまでの暮らしや 現状の把握	С	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	0	情報を共有し、申送りをしている。				く、職員や利用者ともにほとんどが島内出身者のため、馴染みの関係が構築されている。利用者の背景や生活歴等は、フェイスシートに記録して共有されている。
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握 に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかか わり等)		不穏時やそのようになる前のシグナルも観察し共有するよう努めている。				7210 20 30
			利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の 流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握してい る。		24時間シートを作成している。				7
	エニノで行うマトフ・ハー		把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としている のかを本人の視点で検討している。	0	毎月カンファレンスを行い、スッタフ全員で検討している。			0	
2	チームで行うアセスメント (※チームとは、職員のみ ならず本人・家族・本人を よく知る関係者等を含む)		本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討 している。	Δ	検討は出来ているが実践につながらない時がある。				7包括的自立支援プログラムを活用し、職員が話し合いながら課題分析を 行っている。その際、利用者や家族の意向を丁寧に聴き取り、総合的援助 方針や生活課題に反映するよう努めている。
	かくがのぼ はは 中ではの)	С	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課 題を明らかにしている。	Δ	カンファレンスを行い、課題を明確なものにしている。				

阿爾斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯	小 項 日	内容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
		本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	Δ	本人に聞いた事や様子を踏まえ、カンファレンスにて検討し、反映されるよう努めている。					
チームでつくる本人が 4 より良く暮らすための	b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	Δ	カンファレンスにて本人のケアについて話し合っている。	0		0	理念に掲げているように、その人らしさを大切に考え、できることややりたいことに着目して目標を設定し、利用者の望む暮らしが実現できるよう職員で話し合って検討している。歯科衛生士の資格を持つ職員や、併設事業所の	
介護計画	С	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし 方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	0	今までと同様に顔なじみの顔、声、環境で暮らせるよう努めている。				一番によって検討している。国体衛生工の貨品を持つ職員で、所設事業別で 看護師の意見等を反映した内容になっている。	
	d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体 制等が盛り込まれた内容になっている。	Δ	月に一度程度インフォーマルサービスの利用がある。				7	
	а	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職 員間で共有している。	0	スッタフ全員でモニタリングを行っている。			0		
介護計画に基づいた	b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、 日々の支援につなげている。	0	日々の記録や申送り、カンファレンスにて情報を共有し実践している。			0	─毎月利用者全員のケアカンファレンスを実施し、介護計画の実施状況を確認して検討している。不参加の職員にも周知できるよう、カンファレンス記録を回覧している。全ての記録は各ユニットのパソコンで一括管理され、しまでも見ることができる。また、個別の介護記録に利用者の暮らしの様子	
日々の支援	С	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	0	細かく記録出来ている。			0	が経時的に記録され、不穏状態にある利用者に対する状況判断や対応し	
	a	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイ デア等を個別に記録している。	0	細かく記録出来ている。			0		
	а	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	0	毎月カンファレンスを実施している。			0	新たな要望や変化等がない場合でも、月1回介護計画の実施状況や利用	
現状に即した 介護計画の見直し		新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現 状確認を行っている。	0	スッタフ会にて話し合っている。			0	い、介護計画の見直しを行っている。利用者の状態等に変化がある。	
	С	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。		話し合ってはいるが計画は作成していないことがある。			0	家族や医療関係者と共に協議し、現状に即した介護計画を作成し実践しいる。	
	а	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議 を開催している。		少数でも集まって検討するよう努めている。その場で意見交換行い実施している。			0		
チームケアのための会議	b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率 直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場 づくりを工夫している。		全員が発言するよう順番に当てている。				毎月開催するケアカンファレンスのほか、申し送り時のミーティング等で し合い、意見や提案を出し合って検討を行っている。できる限り多くの職	
		会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの 職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫してい る。	0	希望休の多い日は避けている。				アが参加できるよう夜間にケアカンファレンスを開催しており、参加できなかた職員には伝達事項に会議録を添付して周知している。	
		参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容 を正確に伝えるしくみをつくっている。	0	会議録を伝達事項で確認出来るようにしている。			0		
	а	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に 検討し、共有できるしくみをつくっている。	0	伝達事項や連絡網の活用			0	朝礼ノートを出勤時に確認してサインし、情報を共有できるよう工夫してい	
3 確実な申し送り、情報伝達	実な申し送り、情報伝達 b	最伝達 日 b の	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全て の職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に 関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)		申し送り、伝達事項の活用。	0			7 朝代ノートを出勤時に確認してリインし、情報を共有できるより工夫している。必要時には連絡網を活用してメールで情報伝達をする場合もある。

変媛 項目 No.	県グループホームはなみ 評価項目	りする	· 	自己評価	判断した理由・根拠	家族	地域評価	外部	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
- 1101	 <mark>日々の支援</mark>			高平1四		▋ 吉平1皿	1 音平1四	計1四	
<u> </u>		а	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それ を叶える努力を行っている。	Δ	「やりたいこと」「出来ること」を一緒に考えている。				
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	0	遠足や地域行事の参加、行きたい場所へのアンケート作成している。			0	
		С	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	Δ	努めているが全員の納得は得られていない。				7 日常生活全般について自分で決めてもらうことを基本に支援している。月2 」回の買い物では利用者に希望を聞き、同行する場合もある。利用者や家族
9	利用者一人ひとりの思い、 意向を大切にした支援	d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にした支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)		本人のペースや希望に合わせて入浴回数等決定している。すべてを本人のペースに合わせられ るよう努めている。				に、行きたい所やしたいこと等についてアンケート調査を行い、要望に応えるよう心がけている。また、1日1回笑って過ごせるよう利用者の好む言葉や声かけに努めている。
		е	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	0	本人の好む言葉や声掛け、を行うように努めている。一日一回笑っていただけるよう努めている。			0	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	0	アセスメントから好きだったことを続けていけるように努めている。				
		а	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にした言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。		声掛けや呼び方等気を付けている。	0	0	0	
	ー人ひとりの誇りや プライバシーを尊重した 関わり	b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	Δ	努めているが人前でも介助をする場合がある。			0	管理者は自分がされて嫌だと思うことはしないよう、自分に置き換えて考え ケアを行うよう指導している。声かけにも気をつけるよう努めているが、誘
10		С	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	0	トイレの促しは他者にも聞こえてしっまっていることがある。入浴時は行えている。				導時に大きな声になることもあり注意している。居室ドアは閉じており、入室 時は利用者の同意を得ている様子が窺えた。
			職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。		入室する際はインターフォンを鳴らしたり、ノック、声掛けし入室している。			0	
		е	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	0	入所契約時に個人情報使用同意書をもらっている。他者の記録に個人名は記入しないよう努めて いる。				7
		а	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利 用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し 合うなどの関係性を築いている。	0	得意なことを教えてもらったり、利用者様に先生になってもらうことが多くある。				
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮ら していくことの大切さを理解している。	0	役割を持ち、支え合えるよう努めている。				7
11	ともに過ごし、 支え合う関係	С	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	0	トラブルになった際に間に入り、話し合いに参加している。			0	車いすを押してあげたり、レクリエーション参加の声かけをしたりと、利用者同士助け合う場面が見られた。また、ユニット間を自由に行き来し、交流できるよう配慮している。
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。		すぐにスタッフが間に入り解決にあたるように努めている。				

項目 No.	県グループホームはなみ 	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
		а	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り 巻く人間関係について把握している。	Δ	アセスメントしているが把握できていない利用者が多い。				
		D	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や 馴染みの場所などについて把握している。	Δ	本人や家族から聞くようにしている。				
12	馴染みの人や場との関係 継続の支援	С	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。		友人が来てくれている。大切にしていた場所へは行けていない。				The state of the s
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつで も気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	0	訪問時は居室ですごしていただきお茶等出している。随時掃除を行い清潔を保つよう努めている。				To the state of th
		а	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)		買い物日等もうけている。天気の良い日は外気浴、地域行事に参加している。	0	0	0	アンケートの希望に応えて、大型スーパーへの遠出や、地元店での外食、 秋祭りや文化祭等の地域行事に参加している。広大な駐車場を取り囲むよ
13	 日常的な外出支援 	b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も 得ながら、外出支援をすすめている。	Δ	外出はしているがインフォーマルサービスでの外出はない。				うに関連事業所が立ち並んでおり、車いすで楽に戸外に出ることもできる。 インフルエンザの流行があり外出を控えていたが、収束すれば重度等状態
			重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	Δ	短時間の散歩等行っている。地域行事以外にはあまり外出はできていない。			Δ	「にかかわらず、外出支援に取り組む意向であり、積極的な支援が望まれる。 る。
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように 支援している。	Δ	遠足時等家族に参加して頂く場合があるが全員ではない。				
		а	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	Δ	会議等で話し合い個々の認知の程度について話し合っている。				
14	心身機能の維持、 向上を図る取り組み	b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平 衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・ 嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自 然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。		バイタルチェックや排泄チェックで常に一目でわかるようにしている。				7 利用者一人ひとりの心身機能のレベルを把握し、できることやできそうなことは過剰な介護にならないよう見守っている。訪問時も職員が手伝いながら古着を切ったり、共同調理場で作った料理をみんなで配膳している様子が見られた。
		С	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。 (場面づくり、環境づくり等)		出来る部分はなるべく自力で行って頂くようにしているが手伝ってしまうこともある。	0		0	
		а	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を 踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるの かを把握している。	Δ	やりたいこと、できることを把握するよう努めている。				
15	役割、楽しみごと、 気晴らしの支援	b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びの ある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽し みごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	0	身体を動かすレクや、昔を思い出すような歌をレクに取り入れている。	0	0	Δ	利用者一人ひとりの趣味や特技を把握し、共用スペースに出て楽しい時間が過ごせるようレクリエーションに取り組んでいる。さらに、利用者が持っている能力を日常生活の中で発揮し、自信を深める経験ができる場面を増やしていくことに期待したい。
		С	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう 支援している。	Δ	地域行事に参加している。				7

項目 No.	評価項目	, , , C 小	自己評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
		身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととられる人の人らしい身だしなみやおしゃれについて把握してる。	civ O	一緒に服を選んでいるが、全員ではない。 散髪等本人の意見を聞き入れてもらっている。意思疎通が難しい方の場合は出来ていないことが				
		利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じ b 形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるよ 援している。	うに支口	ක් ති				
		c 自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考 アドバイスする等本人の気持ちにそって支援してい	がる。 O	いくつかの選択肢を持ち望んでいる。				各居室に洗面所があり、自分でできる利用者は各自で整容や更衣を行って
	しなみや ゃれの支援	d 外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたそのかい服装を楽しめるよう支援している。	0	本人の望む服を一緒に選んでいる。				いるが、不適切な服装や汚れに気づいた時は、さりげなく声かけをして着替えてもらっている。意思表示が困難など重度の利用者は、家族に好みの服 装を聞くなど、その人らしさが保てるよう支援している。
		整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にして e なくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼの周囲等)	. さりげ	さりげなく交換するよう努めている。	0	0	0	
		f 理容・美容は本人の望む店に行けるように努めて	いる。 🛚 🛆	事業所に来てもらっているが、行きつけに行く場合もあり。				
		重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしされる。	が保て	アセスメントに基づいて好む髪形に決めている。			0	
		a 職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを している。	0	食べて鋳物は聞いている。たまに実行する。				
		b 買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付ける 用者とともに行っている。	^{等、利} △	自分の皿などを寄せる程度。			0	
		利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付け c る等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成 つなげている。	茂感に △	ほぼできてない。				
		d 利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレギーの有無などについて把握している。	レル 0	把握している。				
		献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なものルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬のでも、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れる。	食材 いてい [△]	郷土料理などを作ってくれる。			0	
		利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や優 病等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、よ そうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー 刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	更秘・下 Sいし	一人一人に合わせた大きさや分量にしている。				法人の管理栄養士が献立を作り、共同調理場で調理して各ユニットで利用者と一緒に配膳している。誕生日会では特別な料理が用意され、他事業所の利用者と共に祝っている。干し柿やまぜご飯も作り、郷土料理の「いぎ
	を楽しむことの	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすのを使用している。	いもの	職員や家族から提供されたものを使用する。			Δ	す」が食膳にのぼることもある。湯呑は使い慣れたものになっているが、その他の食器も利用者の好みで選べるよう検討して欲しい。居室に自分の食 器を置いて使用している利用者もいる。検食担当職員は同じテーブルを囲
・ でき	る支援	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食 がら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースやこの混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげ行っている。	食べ方	同じテーブルで検食している。				んで一緒に食事を摂り、ゆったりと穏やかに声をかけながら介助や見守りを行っていた。重度の利用者も自分のペースで、食事の時間が楽しめるよう雰囲気づくりにも努めている。また、利用者の嚥下状態や体調に合わせ
		重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話 i 通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえる 雰囲気づくりや調理に配慮している。	などを	各自のペースで食べて頂いている。	0		0	で食事形態を工夫し、利用者がバランスのいい栄養が取れるよう考慮する など、管理栄養士が献立を作成している。
		利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる j 栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じてきるようにしている。	る量や	水分摂取には気を付けている。				7
		食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用 k は、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミン 夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる	月者に グ等エ O	家族の協力を得て補食や好きな飲み物を用意している。				7
	1	職員で献立のバランス、調理方法などについて定 に話し合い、偏りがないように配慮している。場合 ては、栄養士のアドバイスを受けている。	期的 によっ O	管理栄養士による献立や調理を毎日頂いている。			0	
		食中毒などの予防のために調理用具や食材等の m 管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と に努めている。	I#I	使用する前に消毒している。				

項目 No.	ンーノホームは <i>なる</i> 評価項目	, , , , , , , , , , , , ,	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地均評価	或 外· 西 評·	部 実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
			職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながること を知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解してい る。	0	理解している。				
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、 義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	0	口腔ケアの時確認するようしている。				
		С	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法に ついて学び、日常の支援に活かしている。	0	歯科衛生士による指導を毎週受けている。				 歯科衛生士の資格を持つ職員が在籍しており、一人ひとりの口腔内チェッ
18 口腔内 	列の清潔保持	d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	0	毎晩市販の薬剤による消毒をしている。				プクを行って予防的対応がされている。毎食後の口腔ケアと毎晩義歯の洗浄 消毒を行うなど、口腔衛生に努めている。
		е	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが 生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯 磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症の チェック等)	0	出来るところは、自分でやってもらっている。				
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのま まにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	0	歯科往診に来ていただいている。				
		а	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	0	スタッフ全員で話し合っている。				
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	0	知っている。				
		С	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	0	シグナルの把握に努めている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々の状態にあった支援を行っている。	0	随時対応している。	0			
19 排泄の)白立支揺		排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを 行っている。		マッサージ等で対応する。			1	
10 13/12/03		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	0	シグナルを見つけ随時のトイレ誘導をする。			1/	合って適切な排泄用品を選択できるよう努めている。
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	0	必ず家族と相談するようにしている。			1	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙 パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	0	個々の尿量等に応じて出来ている。				7
			飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に 応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行ってい る。(薬に頼らない取り組み)	0	水分量の調整や果物などの摂取をしている。			1	
			曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用 者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援 している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。		利用者にアンケートをとり回数を決めている。	(
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援して いる。	0	個浴で対応している。				── 三方向から介助することができる和式浴槽に冬季は週2回、夏季は週3回
20 入浴を できる	楽しむことが 支援	С	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援 している。	0	不安な場合は2人介助にて対応している			1	人浴ができるよう支援している。利用者毎に毎回湯を替えており、好みの 温度でゆっくり会話をしながら入浴できるなど、利用者本位のケアに努めて
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	0	時間をおいて入浴したり、日を変えている。			1/	一 いる。
		е	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否 を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	0	入用前には必ずバイタルチェックし異変があれば看護師と相談している。				7

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
			利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	0	全員出来ている。				
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	0	日中の活動量を上げたり、眠れるようホットミルクの提供すなど、寄り添うって話をするなどしている。				7 夜間不眠時は一緒に寄り添い、眠気を催した時を見計らって就寝しても
21 安	:眠や休息の支援	С	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、 支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。		ホットミルクなどでの対応もしている。			0	ーらっている。日中を活動的に過ごせるようレクリエーション等に誘うなど、安 易に薬剤に頼らない支援に努めている。
			休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう 取り組んでいる。	0	本人希望の場所での対応をとっている。				7
			家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり 取りができるように支援をしている。	0	ご家族に電話をし声掛けかけてもらうこともある。簡単なはがきを家族に出すこともある。、				######################################
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	Δ	届きものやお手紙があった場合など電話している。				
22 電	記話や手紙の支援	С	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	Δ	要望があれば対応している。				T
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように 工夫している。	0	届きものやお手紙があった場合など電話している。本人の声でお礼をいってもらう。				T
		е	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力を してもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるよう お願いしている。		電話をくれる家族は多いが、手紙はすくない。				7
			職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	0	買い物支援をするが、購入量には気を付けている。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う 機会を日常的につくっている。	0	買い物日を決めて対応している。				
			利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	Δ	直接お店に理解をもとめることはない。				
23 使	金の所持や うことの支援		「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	0	本人の希望で所持できるようにしている。				7
			お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し 合っている。	0	話し合っている。				
	-	f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。		レシートの保管や残金等の記録をしている。				7
24 多応	・様なニーズに える取り組み		本人や家族の状況、その時々のニーズに対応して、既 存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの 多機能化に取り組んでいる。	0	月に1度のインホーマルサービス程度。	0		0	島外の病院受診に家族が付き添えない場合は、家族に代わって付き添っている。今後、個別の要望に対して家族の協力を得ながら対応していきたいと考えている。

項目 No.	県クルーフホームはな。 評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)	上活環境づくり								
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。		気軽に出入りできるが、フロアーまでの距離が遠い。	0	0	0	敷地中央に汲み取りポンプのある井戸があり、取り囲むように平屋で落ち着いた雰囲気の建物が建ち並び、開放的な印象を受ける。玄関ドアは常に開放されていて自由に出入りすることができる。
		а	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。 (天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	0	落ち着いた色の使用や、子供すぎず家庭的な雰囲気になるよう努めている。	0	0	0	
	日心地の白い	b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮 し、掃除も行き届いている。	0	毎日のトイレの清掃や毎週1回の居室の清掃を実施している。			0	中庭に面した共用スペースは明るく広々としており、オープンキッチンと椅子席が設けられ、食堂兼日中のくつろぎの場として活用されている。掃除
26	居心地の良い 共用空間づくり	С	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。		まだまだ出来てないことが多い。			0	はきれいにされており、清潔感が感じられる。壁には利用者と職員が共同で作成したクラフト作品が品良く飾りつけられている。ロビーの壁面には誕生会の集合写真が飾られ、利用者が回想できる場所になっている。
			気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気 配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしてい る。	0	今の席順や部屋の遠近で配慮している。				
		е	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工 夫している。	0	トイレは各居室内ある。浴室も直接は見えない。				
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている。	0	本人の希望で寝具類、家具類等使い慣れたものを、持参しているかたもいる。	0		0	居室には、洗面台や冷蔵庫置き場、オゾン脱臭機、車いす用トイレ、クローゼットが設置され、テレビや家具を思い思いに配置して居心地良くしている。家族写真や仏壇、戒名を書いた額を置き、毎日祈りを欠かさない利用者もいる。
		а	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかる こと」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送 れるように配慮や工夫をしている。	0	環境整備で一人一人の家具類の位置が違う。			0	
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討 し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫を している。	0	自分のものではないと言い張る人には、一度事務所で預かるようにしている。				トイレ表示の工夫や、居室が分かりやすいよう車いすを使用する利用者の 目線に合わせた位置に写真を飾る等している。建物内はバリアフリー構造 で広々としており、車いすやシルバーカーで自由に移動できる空間になって
		С	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	0	新聞のみ、食事の時は急須をおいて対応している。				がおり、自立した生活が送れるよう配慮している。
		а	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	0	話し合っている。	0	0	0	
29	鍵をかけない ケアの取り組み	b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	0	話し合っている。				でである。
		С	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理 的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくて もすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把 握、近所の理解・協力の促進等)。		かけてない。				

項目 No. 評価項目	小項日	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域評価	外 i 評	部 実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支								
	а	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等 について把握している。	0	内服薬確認がすぐできるようにしている。				
30 日々の健康状態や 病状の把握	b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	0	バイタルチェックを毎日及び必要に応じ随時している。				Attention to the state of the s
	С	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつ でも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適 切な入院につなげる等の努力をしている。	0	すぐに相談できる。				***************************************
	а	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本 人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	0	入居者全員の病歴や服薬等について把握している。家族が希望すれば島外の病院も受診できる。 る。	0			
31 かかりつけ医等の 受診支援	b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を 受けられるように支援している。	0	看護師等から病状の説明をし本人及び家族の了解を得て受診する。了承が得れない場合は受診 しない。				
	С	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	0	受診時は常に前後で、家族に連絡を取り意見を聞いている。				***************************************
		入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む 本人に関する情報提供を行っている。	0	入院歴なし				
32 入退院時の医療機関との連携、協働	b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院 できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めて いる。	0	入院歴なし				
		利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	0	出来でない				
	а	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。 看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	0	随時報告している。				
33 看護職との連携、協働	b	看護職もしく訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	0	ある。				
	С	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が 適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早 期発見・治療につなげている。	0	バイタルチェックが毎日必要に応じ随時出来ている。				
	а	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や 用量について理解している。	0	すぐに見られるよう、ファイリングしてある。				
	В	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう 支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	0	チェックしている。				
34 服薬支援	С	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、 副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の 低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っ ている。	0	チェック表を作成している。				
	d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や 変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供し ている。		出来ている。				

項目 No.	評価項目	小項日	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外剖 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
			重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。		家族、看護師、管理者等と話し合いを重ねている。				
			重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	0	医師にも随時ご家族の意向や意見を伝えている。	0		0	
35	重度化や終末期への支援	С	管理者は、終末期の対応について、その時々の職員の 思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができる かの見極めを行っている。	0	スタッフや看護師の意見を求め、何ができるかを随時相談している。				/ 法人内の医療関係者との密な連携体制のもと、家族と話し合いながら穏や - かな最期を看取り、深く感謝されたことは職員の自信にも繋がっており、今
	主反心、尽不冽。"妙之诚	d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や 対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	0	家族、看護師、管理者等と話し合いを重ねている。				後の業務にも活かせている。
		е	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		スタッフ間での話し合いは随時行っている。				7
			家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家 族間の事情の考慮、精神面での支え等)	0	多面での療養の方法をお伝えしている。				7
			職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	Δ	まだできてない。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が 一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対 応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整え ている。	Δ	まだできてない。				7
36	感染症予防と対応		保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等 を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発 生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。		去人内で情報を共有している。				7
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の 流行に随時対応している。	0	マスク、手洗い、消毒等予防対策はしている。				
		е	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者 や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援してい る。	1	与掛けや体調確認するようしている。				

項目 No. 評価項目	小項日	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅱ 家族との支え合い								
		職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒 哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いて いる。		家族の思いや悩みを聞いている。				
	b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)		多くは居室で過ごしていただき、お茶等お出ししている。				
	С	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	0	行事ごとは家族の参加を案内している。	0		0	
本人をともに支え合う	d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている 家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、 利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えてい る。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写 真の送付等)		出来でない。	0		<i>(</i>	ー 利用者は経営形態が、サービス付き高齢者住宅からグループホームに変わっても、引き続き利用しており、利用者や家族とは馴染みの関係ができ
家族との関係づくりと支援	е	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。		家族の不安なことを、じっくり聞くよう努めている。				7 ている。家族には、月祭りや遠足等の行事案内をして参加を得ているほか、面会時に暮らしの様子を伝え、電話でも頻回に報告を行っている。毎月便りを発行しており、最近は利用者と職員合作の絵手紙を添えて送り、
37	f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)		出来ないこともある。				7 感動的な返信をもらっている。2か月に1回開催される運営推進会への出席や、続いて開催する家族会で報告や意見交換を行っているが、次第に家族の参加が減っているため、改めて会の運営について家族の意向を聞く機会を設け、運営上のことや職員の異動等についても報告することを期待したい。また家族の面会時に気軽に声かけするなど、相談しやすい雰囲気づ
	g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、 理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機 器の導入、職員の異動・退職等)		行事ごとは参加の案内を出している。	0		Δ	くりにも努めて欲しい。
	h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)		遠足は家族の参加型にしている。				7
	i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に 説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し 合っている。		家族に話す機会をいただき、ケアマネとしてお話している。				7
		家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に 伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定 期的な連絡等を積極的に行っている。		気軽に声掛けいただけるよう、職員から声掛けするようにしている。			Δ	
	а	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説 明を行い、理解、納得を得ている。	0	事前に内容説明を行い契約している。				**************************************
38 契約に関する説明と納得	b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	0	退去者は家族の希望する、特養入居者と看取りさせていただいた2名のみで納得いただいている。				
	'	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)		利用料金改定は、その都度報告し改定している。				7

項目 No. 評価項目) 須	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
Ⅲ.地域との支え合い										
	a		地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつく リ、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図ってい る。	0	運営推進会議で説明を行った。					
	k	た b 頃 あ	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日 員から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なるいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	0	運営推進会議で、地域の方から地域行事を教わっている。		0	0		
地域とのつきあいや	C		可用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増 えている。	Δ	あまり把握できてない。				7	
ネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する		d 봐	也域の人が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	Δ	利用者の友人や家族はよく来ていただく。月祭りは地域の主要なイベントとなっている。				7 上近くにある神社や寺院、公民館での行事に参加し、法人が行う月祭りは地 1	
39 市町の日常生活圏域、 自治会エリア	6		弊近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	Δ	挨拶は常にしている。				域行事として定着し盛大に行われている。併設されている通所サービスの利用者との交流の機会も多く、訪問中も廊下づたいに通所サービスの利用者が訪れ会話をするなど、地域住民との交流もできている。	
	f	f t	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がり や充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行って いる。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	0	誕生会等で地位の民謡や人形劇等のボランティア団体が歌や劇で支援してくれます。					
	g	g L	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握 、、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らし を楽しむことができるよう支援している。	Δ	お祭りやイベントには参加するが、全員の方が力を発揮しているとはいえない。				7	
	ŀ	h を	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得るこ ができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係 を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スー ペー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消 方、文化・教育施設等)。	Δ	理美容店が出張してくれます。					
	a		重営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の 参加がある。	Δ	少ないが毎回参加してくれます。	0		Δ		
	k	b σ	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価へ り取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成 計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	0	前回報告しました。			0	運営推進会議には、家族や自治会長、老人クラブ会長、民生委員等地域 の人々の参加があるが、家族の参加者が固定化されているので、他の家 族にも積極的に呼びかけるなど参加者の増にも努めて欲しい。会議では、	
運営推進会議を 活かした取組み	C	c E	軍営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わ らず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組み やサービス向上に活かし、その状況や結果等について 報告している。	0	意見交換の時間を設けています。		0		利用者状況や活動報告後に意見交換を行っている。参加者から得た情報 をもとに、地域行事や地区防災訓練等に参加している。家族や地域参加者 に対して認知症ケア啓発のミニ講座を企画したり、地元消防団の話しを聞	
	d	d	d カ	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバー が出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をして いる。	0	毎回参加メンバーに確認している。		0	1 /	7いたり等、内容を工夫しながら、より充実した会議になるよう取り組んでいる。 る。
	6	e 追	軍営推進会議の議事録を公表している。	Δ	すぐに見れるようにしている。				7	

	県グループホームはなみ I	10.				1		
項目 No.	評価項目	項 内容目	自己 評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.	り良い支援を行うための	運営体制						
41	理念の共有と実践	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつ くり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通 認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになる よう日常的に取り組んでいる。	Ο	取り組み出来ている				
		b 利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく 伝えている。	0	かみ砕いて説明している。	0	0		
	職員を育てる取り組み ※文言の説明	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力 a 量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう 取り組んでいる。	Δ	参加できる人に参加してもらっている。				
	代表者:基本的には運営 している法人の 代表者であり、理事長や 代表取締役が該当する	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・b 学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	Δ	旧今治市内等の島外研修は参加希望がすくない。計画的に声掛けし参加を促したい。				
42	が、法人の規模によって、 理事長や代表取締役をそ の法人の地域密着型サー ビス部門の代表者として	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況 を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が 向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努め ている。	Δ	職場環境改善及び整備に努めている。				代表者は新入職員に対して、業務やケア内容についてチェックリストを作成し、確実に実施できるよう教育支援を行っている。また、職員が意見や提案を言いやすい職場環境づくりを推進するよう努めている。
	扱うのは合理的ではない と判断される場合、当該部 門の責任者などを代表者 として差し支えない。した がって、指定申請書に記 載する代表者と異なること はありうる。	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を d 通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。 (事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会など への加入・参加)	Δ	今治地区グループホーム協議会に加入し2月に1回誰かが参加するようにしている。				
		e 代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための 工夫や環境づくりに取り組んでいる。	Δ		0	0	0	
		代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について 学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどの ような行為なのかを理解している。	0	スタッフ会議で話し合っている。				
42	虐待防止の徹底	b 管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返った り話し合ったりする機会や場をつくっている。	0	毎月1回のスタッフ会議でカンファレンスしている。				 自分がされて嫌だと感じることは、利用者に対しても行わないよう指導して おり、不適切なケアや言葉遣いに気づいた時はその都度注意喚起を行う
43)高14 的亚 沙 1散)医	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見過 c ごされることがないよう注意を払い、これらの行為を発見 した場合の対応方法や手順について知っている。	0	全員で注意し合っている。			0	ほか、対応方法や手順について職員で共有している。また職員会議で議題 として取り上げ、協議を行うなど業務改善にも努めている。
		代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者への d ケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検して いる。	Δ	スタッフ個々に話を聞いて、ストレスフリーになるよう声掛けしている。				
		代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対 a 象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは 何かについて正しく理解している。	Δ	全員が理解できているとは言えない。				
44	身体拘束をしない ケアの取り組み	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場 b の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくって いる。	0	スタッフ会議等で話し合っている。				CARLES TO SERVICE AND
		家族等から拘束や施錠の要望があっても、その弊害に ついて説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取 り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねなが ら理解を図っている。	Δ	家族からの要望はない				APPENDENCE AND APPEND

項目 No. 評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
	а	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見 制度について学び、それぞれの制度の違いや利点など を含め理解している。	Δ	勉強会参加している。				***************************************
権利擁護に関する 制度の活用	b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。		出来でない。				
	С	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	ν Δ	一部のものは相談があればできる。				described to the second
	а	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	Δ	周知は出来ているが、勉強会はできてない。				
急変や事故発生時の	b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に 行い、実践力を身に付けている。	Δ	訓練は出来てない。				7
6 備え・事故防止の取り組み	С	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の 一歩手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員 間で検討するなど再発防止に努めている。	0	全て報告するが、職員間での十分な検討はされてない。				7
	d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険に ついて検討し、事故防止に取り組んでいる。		今後の改善案等を記入して伝えている。				Z
	а	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、 適宜対応方法について検討している。	Δ	スタッフ会議では説明した。				
7 苦情への迅速な対応と 改善の取り組み	b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	0	利用者からの苦情が思い込みであったことを、家族と共通認識ししたことにより事無きを得た。				7
	С	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとと もに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得なが ら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	<u>- </u>	全員で共有し話し合った。				7
	а	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)		苦情箱の設置と、何でも話せる雰囲気づくりに努めている。			0	
48 運営に関する意見の反映	b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)		苦情箱の設置と、何でも話せる雰囲気づくりに努めている。	0		0	ー 利用者の意見や要望は日常会話の中から聞き取り、それに応えられるよう
	央 c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談かできる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	0	出来ている。			//	対象がでいる。家族とは良好な信頼関係が構築されており、運営推進会議や家族会で意見聴取をするほか、面会時に声をかけて聞いている。管理者は職員に職員会やケアカンファレンスの場で意見や提案を伝えるほか、面談
	d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や 要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	0	年に数回運営推進会議に参加している				7などで個別にも聞くなど意見等を集約し業務に活かせるよう努めている。
	е	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を 持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営に ついて検討している。	:	毎月1回のスタッフ会議を開催している。			0	

項目 No. 評価項目	小 項 日	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
	a b	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的 を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでい る。	0	今回が初めてである。				今回が初めての外部評価で、職員全員が自己評価を行い、ユニットリー ダーがまとめて評価表を作成した。職員は改めて原点に立ち戻り、求められている事柄や不十分と思われる事柄に気付く機会になったと感じてい あ。今後は運営推進会議で報告し、さらなるサービスの向上に努めること 期待したい。
49 サービス評価の取り組み		評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	-	スタッフ会として統一するようしている。				
		評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	-	目に見える計画を立て取り組みたい。				
	d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	_	関連機関に報告しモニターいただきたい。	0	0	-	
		事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げ た取り組みの成果を確認している。	-	運営推進会議に掲げた目標を確認いただきたい。				
	а	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアル を作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、 原子力災害等)	0	年2回避難訓練を実施している。				7 7 災害時マニュアルを作成し、隣接している法人の事業所と共同で訓練を 施して協力体制を構築している。また、地域防災訓練にも参加して交流し いる。今後はさらに法人内及び地区の防災訓練を重ねながら、細部にわ 一たっての協力体制について検討を重ね、実践に活かせるようになることに 期待したい。
0 災害への備え	b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実 に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を 計画して行っている。	0	危険な場所の確認をしている。				
	_ a	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・ 物品類の点検等を定期的に行っている。	0	常に備品のチェックをしている。				
		地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	0	消防署とは連絡が取れている。	0	0	Δ	
	f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	Δ	共同訓練は出来てない。				
	а	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	Δ	できてません。				電話での相談支援にとどまっており、地域医療活動の実績がある法人の力を得て事業所をPRし、地域の相談ニーズを集約し地域の相談拠点とな事業所を目指して欲しい。開設1年足らずの事業所であるが、住民からの信頼や期待が大きく、それを活かし市や地域関係機関等とも連携し、地域イベントなどにも取り組むことが望まれる。
51 地域のケア拠点としての機能		地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支 援を行っている。	Δ	随時行っている。		0	Δ	
	d e	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	Δ	月に1度民謡クラブ等のボランティアがお誕生会として歌や踊りなど披露してくれる。				
		介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や 研修事業等の実習の受け入れに協力している。	0	法人内でリハビリ研修生を受け入れている。				
		市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)		イベント等に参加している。			Δ	